



光の子ども

施設長 西村 保

新型コロナウイルスのため、東京都知事から週末の不要不急の外出自粛の要請が出された。半世紀生きてきたが、このような経験は初めてである。このところ、初めての経験ということが何度か続いている。

昨年の台風十九号の影響でも、「今までに経験したことのない豪雨となるため」と、数日前から公共交通機関の運休が発表となつた。職員の制止を聞かず朝から出かけた寮の子どもが、案の定、電車が止まり帰寮できなくなつた。環状七号線から甲州街道まで車一台走つていらない、目を疑う状況の中、吹き飛ばされそうになりながら迎えに行き、開けた車の扉が強風のため閉めることができなかつた。なんとかその子を乗せて寮に戻ることができたが、初めての経験だつた。

私が世光寮に赴任した二〇一一年は、東日本大震災が発生した年であつた。発生して二週間後の混乱した中、広島から東京に家族四人で引越ししてきた。東京の夜は電力節電のため、羽田空港は薄暗く、エスカレーターは止まり、街中も看板や街頭の電気は消され真っ暗だつた。ニュースで見ていたが、何が起つていて理解できなかつた。これも初めての経験であつた。



あれば、十八歳を迎えた次の春には施設を出なければならなかつた。本当にタイミング良く二十歳まで在寮が認められるようになり、その後も継続して、無事卒業することができたのであつた。すべての子どもの歩みが、上手く運ぶわけではない子どもの経験を思えば、誰一人、スマートに事が運んではいない。なぜこのタイミングでこんなことになるのか？ 道が閉ざされる経験をすることが多いかもしない。今までに経験したことのない、なぜこんなことが？ が津波のように押し寄せてくる。

それでも、子ども一人一人を見つめる時に、どんな子どもであつても、それぞれ何らかの輝くとのできる力を秘めていることを感じる。その力が引き出されていくため、しっかりと子どもに寄り添つた、個別化された関わりが必要である。今の制度では、限界もあるが、私たちが限界を感じながらも、道が開かれていくことにに対する希望を失つてしまつたら、誰が子どもの心に光を灯すことができるのだろうか。

「あなたがたは世の光である。山の上有る町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。」（聖書 マタイによる福音書五章十四節～十五節）

無事に卒業し、
退寮する後ろ姿…がんばれ！



世の光となることを掲げ、今年、世光寮は八十五年を迎える。この紙面を通して皆様のご支援とご協力に心からの感謝を表したい。また、身を削つて日々励んでくれる職員の姿には、ほんとうに頭の下がる思いである。混乱と制度の限界の中にも、神様に与えられたビジョンを仰ぎ見つつ、私たちに託された働きを進めていきたい。

この春、看護学校を卒業し、看護師の国家資格試験にも合格した子どもが世光寮を退所した。子どもと話しながら、入所したのは東日本大震災があつた年で、九年間、世光寮で暮らしたこと語つていた。入所した頃の児童養護施設の制度で

第55号

社会福祉法人

救世軍社会事業団

救世軍世光寮

杉並区和田2-21-1

03(3381)0545

令和2年4月20日発行

ホーム通信

六



1B木△

1B ホームの夏休みのテーマは「虫」。外では虫採り。部屋では虫の本や昆虫図鑑に夢中。目を塞ぎたくなる様なグロテスクな虫も、子どもは大喜び。夕食や就寝前に「読んで！」と笑顔で虫の本を持つてくる4歳の男の子。上手く反応できないことも：好奇心を阻害してはならないと、気持ちを押し殺しながら向き合う大人。大人の微妙な表情を敢えず見つめる娘の姿。

こんにちは！ 1A ホームです。 1A
ホームは 幼児さん 1名、 小学生 3名、 中学
生 2名、 高校生 1名 の 合計 7名 で 生活して
います。

今年の1Aホームを一言で表すなら「変化の年」でした。令和元年の今年度は新人職員が2名入職しました。子どもたちは打ち解けるのに時間が掛かりましたが、夏休みになる頃には「どしまえん」へ一緒に外 出するまでになりました。

高校生になつた男の子は、毎日休みなく部活動に参加し、青春を謳歌しています。

たつた幼稚園行事の運動会や劇に良い表情で参加し、大活躍をして周囲を驚かせていました。また、文字にも興味が芽生え、読み書きを楽しんでおり、職員に得意気に披露してくれています。入所してきた頃の彼を思い出し、本当に成長したなと感じています。改めて子どもの成長は一瞬で、素晴らしいものだと思い知らされます。そんな子どもの成長の一瞬一瞬を大切にしながら、彼らの人生を支えていけたらいいなと思います。今年度ももうすぐ終わりですが、これからも良い方向に日々「変化」していくような1Aホームであり続けたい



ままでに～興味津々の幼児さん

2A木ノ△

こんにちは、2Aホームです！ 2Aホームは現在高校生2人、中学生2人、小学生1人、2歳の女の子1人の計6人で生活しています。

今回は2歳の女の子Aちゃんと小学生のB君のエピソードを紹介します。

Aちゃんは入所したての頃、ほとんど言葉が話せずコミュニケーションがうまく取れませんでした。しかし職員や他児と一緒に生活していくなかで、職員や他児の言動を真似したり、冗談を言つて周りを笑わせたりすることが多くなっていきました。感情表現が豊かで、喜怒哀楽がしっかりと顔や態度に表れており、とても面白い子で、Aちゃんがいるとホームが和みます。

小学生のB君はAちゃんを妹のように可愛がっています。ある日、B君がリビングで音楽に合ひさせて踊つてゐると、A

個性豊かなホームでAちゃんのはびのびと過ごしています。B君はホームの誰よりも元気で2Aホームの癒しです。こんな和気あいあいとした雰囲気で毎日楽しく生活することができます。これからも職員は子どもたちを全力でサポートしていくよう頑張ります！



お正月には神社の側で、射的を樂しみました！

2B木一八

2Bホームは職員含め、子どもたちも全員女の子のホームです。

そんな2Bホームには今年の4月から、
私と3歳になつた女の子が仲間入りしまし
た。

3歳の女の子は、とても明るく活発で、ほかの子と喧嘩をすることも多々あります。が、半年で個性の強い2Bホームをさらに明るくしているムードメーカーのような存在になりましたと感じます。

毎日子どもと職員の笑い声が聞こえてきますが、最近は百人一首の句が飛び交つてあります。今ホームページで流行っているのは百人一首。小4のAちゃんと中1のBちゃんが授業で勉強していることもあり、ほかの子も興味を持つて覚えたり参加したり。特に、菅家の句がみんな好きなようです。百人一首は高1のCちゃんも嫌いではないと言い、みんなと勝負することを楽しみにしています。

そんな中、得意なことは神経衰弱と言え、記憶力の良い中3のDちゃんが十二月に仲間入りをしました。

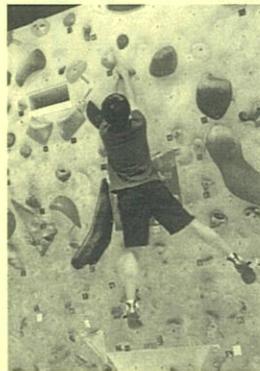
そんな中、得意なことは神経衰弱と言う、記憶力の良い中3のDちゃんが十二月に仲間入りをしました。

子どもたちと職員で試行錯誤しながらも、明るく笑顔に溢れたホームをつくつていきたいと思います！

オアシスホーム



ボルダリング姿!
素敵だね~



3Fホーム

ここには、3Fホームです。今年度の3Fホームは、昨年度末に高校3年生が数名退寮したので、新しい雰囲気で過ごしました。退寮していく子どもたちが、一生懸命仕事や大学で活躍をしてくれていることが何よりの幸せです。

Fホームは、今年度末に高校3年生が数名退寮したので、新しい雰囲気で過ごしました。Fホームは、昨年度末に高校3年生が数名退寮していった子どもたちが、一生懸命仕事や大学で活躍をしてくれていることが何よりも幸せです。

今年も高校受験、大学受験を迎える子どもたちがおり、夏休みには高校見学やオープンキャンパスに参加をしました。多忙な夏休みで、毎年行っていた「としまえん」に今年はいけなかつたことが少々残念です。

癒しの存在Aちゃん!
運動も頑張ってます。



皆さんここには、ご無沙汰しております。皆の人気者オアシスホームでございます。現在男の子5人、女の子1人、新たに1人の子を迎え、5人の職員と共に、計12名で生活しています。男の子たちは勉強に運動に仕事にと、皆が日々色々あります。それぞれの人生を一生懸命頑張っています。

そんな中、オアシスホームの癒しと言ったら、紅一点の幼児Aちゃん。外で頑張ってきたお兄ちゃんたちは、帰宅後まずAちゃんの所へ行き「おかえり」の声を求めます。「おかえり」と言われ、癒されています。そんなAちゃんは、最近平仮名を覚えました。つい最近まで数文字読める程度だったのですが、すっかり使いこなしており、成長の速さに皆驚いています。ちなみにお気に入りの平仮名を聞いてみると「たちつてと」との答え。好きな理由を聞いてもわからぬ様子。響きかな? 形かな? 謎が多いですが、今や職員相手に絵本を読み聞かせてくれるまでになりました。Aちゃんに癒されつつ、時には葛藤も感じたりしながら、色々な事を学んでいるお兄ちゃんたち。そんなオアシスホームの子どもたち一人一人が、沢山悩みながらもそれぞれの人生に向き合えるよう、職員も日々精進しながら、笑顔の絶えないまバタバタとした日々を送りました。職員も新たに1名加わり、フレッシュな風を吹き込んで、毎年行っていた「としまえん」に今年はいけなかつたことが少々残念です。

その代わりではないのですが、夏休み以外ではたくさんお出かけをしましたよ! ある子どもは初めてボルダリングやバッティングセンターに行き、良い経験を積みました。また、ある子どもは秩父に職員とドライブに行き、スタンプラリーや食事を楽しみました。

今年度も終わりの時期にさしかかり、それが来年に向けて本格的に考える時期になつてきました。もうすでに進路が決まっている子どももいれば、これからが本番という子どももいます。一人ひとりが持つていて考えることができるように、3Fホーム職員全員で支えていけるような日々を、楽しく送つていきたいな、と思います。

カエ

力ナホーム



力ナホームはグループホームとして、昨年の4月からスタートしました。複数のホームの子どもたちと職員が集まり、最初はお互いに戸惑いながらも協力しながらスタートでした。

開始当初は2人の男の子と3人の女の子の5人でしたが、9月に年長の女の子が加入、とつてもにぎやかになりました。高年齢の子どもが少ないことは、高2のAちゃんの不満になりましたが…。

生活していく中で、元のホームとの違いがあり、それが子どもたちの不満につながつたりもしましたが、最近ようやく『力ナホーム』としての形ができてきたと思っています。

皆さんここには、エデンホームです。エデンホームでは現在、男の子3名、女の子3名の合計6名の子どもが生活しています。春に久しぶりの新入所があり、十分な準備もできないうまバタバタとした日々を送りました。職員も新たに1名加わり、フレッシュな風を吹き込んでくれています。

ホームでは、子どもたちの成長が見られる場面がたくさんあります。今年は学校生活でも子どもたちの成長をたくさん感じられました。幼稚園年長の男の子は、普段幼稚園では緊張しがちですが、行事等のここぞという場面では持ち前の可愛らしさと賢さで、本領發揮していました。

また、新築の素敵なお家:とプレッシャーもありましたが、子どもたち全員が「自分の部屋」を持つことができ、好きな物に囲まれて過ごしています。自分だけの場所があることは、子どもたちの安心にもつながっています。子どもたちの表情が柔らかくなっていることをとても嬉しく感じています。



おおきな
わたあめ

小学生の男
の子のレゴ
作品!



